

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|-------------------|---|----|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 一般教育科目 | 科学的思考の基盤 安全学 | 将来医療職に従事する学生が安全学に関する基本的素養を身に付けることは必須のことである。本授業は安全学で重要とされる内容を修得させることを目標とする。 安全の基本概念、リスク表現と安全目標、ハザードの同定、確率論的安全評価、事故分析、ヒューマンファクター、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、安全規制、安全システム、安全文化について教授する。 | |
| 一般教育科目 | 科学的思考の基盤 教育原理 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。具体的には、日本における教育の理念および歴史・思想について学ぶとともに、現代における教育のあり方や役割・使命について学ぶ。現代の学校が抱える諸問題、たとえば、いじめ・不登校・高校中退・教師の体罰・校則と管理・保護者の対応などの諸問題について、具体的な事例を通して学び、これからの教育のあり方について考える。 | |
| 一般教育科目 | 科学的思考の基盤 教育方法論 | 学校教育における授業をいかに行うのか、授業の中で児童・生徒は何を学んでいるのか、教師は授業で何を教えるべきなのか等について、具体的な授業の事例をもと考える。「教育実践」や「授業」とはどのようなことか等、これらの意義、歴史的変遷を理解し、児童・生徒が意欲的・主体的に取り組むことのできる授業を実践するために必要な教育の方法と技術について学習する。特に現代はコンピュータなどの情報機器が発達しているので、これらの情報機器の有効な活用法についても学ぶ。 | |
| 一般教育科目 | 科学的思考の基盤 統計学 | 医療分野では日常多くのデータに出会う。それらのデータを解析して意味のある内容を導き出すことが必要になることがある。その際統計学が役立つ。本授業は記述統計学と推測統計学の理解とそれらの応用ができるまでを目標とする。 統計学とは何か、データの整理、平均値、分散と標準偏差、母集団と標本、正規分布、t分布、カイ二乗分布、F分布、母数の推定、仮説検定、分散分析、相関と回帰、保健統計について教授する。 | |
| 一般教育科目 | 科学的思考の基盤 情報科学 | 現在、看護やリハビリテーションの分野に於いてもいたるところでコンピュータが使われ、それに関連する知識が求められている。本授業は情報の基礎知識と情報処理技術を修得させることを目標とする。 情報とは何か、情報の表現、情報科学の歴史、ハードウェアとソフトウェア、ネットワーク、ユビキタス、数値シミュレーション、コンピュータグラフィクス、医療分野の電子情報技術、表計算ソフトExcelを使ったデータの統計処理方法について教授する。 | |
| 一般教育科目 | 科学的思考の基盤 人間工学 | 人間工学は、人に優しい技術、使いやすい機器、生活しやすい環境を創るために生まれてきた学問であり、いろいろな分野で広く応用されている。現代はコンピュータ技術、情報科学、システム工学などの進歩によって人間と機械との境界がなくなり、人間と機械・機器・システムの関係が変化してきている。 人間と機械の関わり、人間の運動特性と心理・感性、人間工学の応用とヒューマンインターフェース、医療技術と人間工学などについて、具体例に基づいて学ぶ。 | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|---------------------|--|----|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 一般教育科目 | 人間と生活 心理学 | 現代の心理学は、人間についての科学的で総合的な理解を目標に、心の働きと行動について研究する学問である。治療やケアの対象となる人間の心理や行動を迫り、多面的に理解するための心理学の基礎(知覚や感覚、学習、記憶、情動や動機付け、思考や言語、発達、性格)を学ぶ。 また心理学を学習することで、自己理解や自己統制を助け人間形成にも役立てる。心理学の基礎知識、方法論を学習し、自他の理解について、心理学的なアプローチがあることを学習する。 | |
| 一般教育科目 | 人間と生活 生命倫理 | 遺伝子の化学的本体と機能が明らかになり、個体発生・個体の行動・社会形成などの高次の現象の基本設計も遺伝子情報にあることが浮き彫りにされた。また、生命科学の発達は新しい生命工学技術を生み、それを駆使して医療分野も著しい変革を遂げつつある。 先端医療技術の発達に伴って、生と死をめぐる考え方や医療従事者と患者の関係の有り方に大きな変動が起きており、生命倫理の諸問題が様々な議論を呼んでいる。 生命倫理学という新しい学問が成立してきた歴史的背景を追い、先端生命技術の現在を展望し、具体的な問題に即しつつ生命倫理について考える。 | |
| 一般教育科目 | 人間と生活 英語Ⅰ(社会と文化) | 高校で学んだ基礎的知識を補強しつつ、基礎レベルの英文読解力・聴解力・英文作成能力・英会話力の充実を図ることを目的とする。日常的な文化・社会・国際問題などや学生が関心を寄せることができる身近な話題に関する英文のエッセイや記事を題材にして、語彙力の増加と基本的な構文の再確認及び英文の反復練習に重点をおきながら、上記の四つの英語コミュニケーション能力をバランスよく身につけられる学習を行う。 | |
| 一般教育科目 | 人間と生活 英語Ⅱ(健康と医療) | 看護とリハビリテーションの領域における医療英語の読解・聴解・英文作成・英会話の四分野の基本的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。平易な英文で書かれた医療関係の情報の収集方法の習得と、英文記事などを読解するために、かつ簡単な英文を作成するために基礎的な医療英語の語彙・用語と文章表現を学習する。また臨床現場で簡単な英会話もできるように、医療英会話の基本的表現の聴解と運用の学習を行う。 | |
| 一般教育科目 | 人間と生活 英語Ⅲ(総合演習) | 「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」の学習を基にして、医療・看護領域での総合的でより高度な英文読解力・聴解力・英文作成能力・英語によるプレゼンテーション能力の獲得を目指す。英文で書かれた医療・看護関係の論文・報告書・エッセイなどの読解を重点的に行う。また、論文の英文抄録記述のために、英文作成を実践する。さらに、これらの学習を通して、英語でのプレゼンテーション能力も育成する | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|----------------------|---|---------|
| （保健医療学部リハビリテーション学科） | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 一般教育科目 | 人間と生活 英会話（医療系英会話） | 「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」と同時進行的に、日常生活と医療現場における英語によるコミュニケーション運用能力の充実と発展を図る。日常英会話と臨床英会話の基本的および発展的表現を反復練習して身につけ、それらをロールプレイングやドラマパフォーマンスなどの色々な英語運用方法を通して、日常や国際的な場で遭遇する外国人の患者や医療従事者との意思疎通が臆せずできる英語コミュニケーション能力を修得する。 | |
| 一般教育科目 | 人間と生活 スポーツ医学 | スポーツ指導者がスポーツ医学に関する知識を持つことの重要性について理解を深め、スポーツ活動と健康（QOL）との関わりについて学習する。また世代、年代別の健康とスポーツ活動・運動についての考え方、スポーツ活動中に多いケガや病気について、その発生の原因や症状について理解し、救急処置の判断、処置方法を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （全6回） 運動器の仕組みと働き、スポーツ医学の基礎知識、スポーツ活動が身体に及ぼす影響について学ぶ。また運動不足に起因する様々な疾患とその予防、スポーツで起こりやすいケガについて学ぶ。 （全4回） スポーツで起こりうる内科的障害や発育期の性差、体力の身体的・心理的特徴について学ぶ。また頭部外傷などの様々な状況での救急処置について学ぶ。 （全3回） アスリートの身体傷害（聴覚・視覚障がい）や特殊環境下での対策、対応（熱中症、過換気状態など）について学ぶ。 （全2回） 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給について学ぶ。 | オムニバス方式 |
| 一般教育科目 | 人間と生活 スポーツ栄養学Ⅰ | 健康保護、健康増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識を得るとともに、日々の食事を規則正しく摂取することが健康的なスポーツライフをマネジメントするための第一歩であることを学習する。また、水分補給の重要性についても学習する。 競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高める。競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。 | |
| 一般教育科目 | 人間と生活 体育Ⅰ | 身体の発育発達と機能について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を教授する。また、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの理解を深める。 | |
| 一般教育科目 | 人間と生活 体育Ⅱ | スポーツの意義を理解し、健康の保持増進とともに、体力の向上、人間関係の形成、さらにはスポーツの普及や振興について、実際にスポーツの体験を通して学ぶ。また実際に各種スポーツを体験することにより、スポーツの楽しさを理解する。 | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|-----------------------|---|------------------|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 一般教育科目 | 社会の理解 フレッシュャーズセミナー | <p>新入生を対象とした必修科目であり、大学での4年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。</p> <p>内容としては、基礎学力向上する目的で、人体の構造に関する課題を与え、課題を遂行する事で知識の定着を図り、今後の勉学のモチベーションの向上を図る。そして、授業を行う中での医学的レポートの書き方、図書の活用方法を教授し、スムーズな学業への移行を支援する。</p> <p>また、患者接遇マナー、キャンパスハラスメントに対する対処法、学生を取り巻く課題としての消費者問題への対処法やアルコール依存、薬物依存などを防ぐための対処法、そして通学における車社会への対応、交通安全等に関する講義等を行い、4年間の学生生活への支援を行う。</p> | 講義20時間 演習10時間 |
| 一般教育科目 | 社会の理解 フレッシュャーズセミナー | <p>新入生を対象とした必修科目であり、大学での4年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。</p> <p>また、医療に関わる専門職としては、医療チームと協働、顔の見える連携が必要であり、本学部の強みを活かし、リハビリテーション学科と看護学科の学生合同で授業を進めお互いの職種を知ることを目的とする。お互いの仕事内容の確認と医療現場におけるコミュニケーションを育てるための連携を目的とした授業を進める。 (オムニバス方式/全15回) (全2回) 理学療法士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 作業療法士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 言語聴覚士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 看護師の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全7回) 医療現場において連携を求められる場面について考え、医療現場における連携の実際、必要性について理解する。また、変化する医療現場に応じて新たな連携のあり方を模索する意識の獲得を図る。医療現場における組織全体との調和・連携、医療関連職種との連携、病院と地域との連携について教授する。</p> | オムニバス方式 |
| 一般教育科目 | 社会の理解 人間関係論 | <p>人間関係における基礎的な知識、基礎的な技術について教授する。内容としては、人間関係における社会的相互作用やコミュニケーションにおける基礎的な知識や技術について教授する。あわせて、自己を理解することの必要性について教授する。さらに、医療職としての人間関係について、自己を理解することやクライアントを理解することを通し、クライアントとの関係づくりの基礎を教授する。</p> | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|-----------------------------|---|----|
| （保健医療学部リハビリテーション学科） | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 一般教育科目 | 社会の理解 日本国憲法 | 日本国憲法に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。戦後日本の平和と民主主義の理念のもとに平和憲法である日本国憲法が制定された歴史を踏まえ、私たちの生活と権利を守る日本国憲法の基本的人権の精神を学び、日本国憲法を実際の生活に活かすことを目指す。同時に憲法は国家の動向を監視する役割もあり、国家のあり方を監視し私たちの生活と権利を守る存在としての日本国憲法の歴史的・現代的意義を学ぶ。 | |
| 一般教育科目 | 社会の理解 コーチング論 | 近年コーチングという概念は大きく変化しつつある。コーチングの手法はコーチが持つ人間観によってもパフォーマンスが左右される。人間が持つ本来の力をいかに発揮させるがコーチングの姿である。 講義では、理論とトレンドな情報、映像を交え、時には従来の精神主義、根性主義的なコーチングと現在のコーチングとの比較を試みながら、あるべきコーチングのあり方、効果的なコーチング手法を講義し時にはロールプレイを行い実践者としての理解を深めていきたい。 毎回レポートの提出を行い、コーチング理解の進捗状況を見極めながら講義を進める。 | |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 解剖学総論 | 人間を対象としその障害を治療する仕事においては、人体の構造と機能を理解することが重要である。解剖学の学習は、人体の構造と機能の理解には欠かすことができないものであり、各部の名称を理解し記憶することが基本となる。解剖学専門用語の理解のみならず、骨学、筋学、靭帯学、神経学、呼吸循環学、内臓学における基本事項を理解することを目的とする。 また、組織学を取り入れ、実際の組織を目で確認し、各部位の名称の記憶に偏りがちな講義の理解を深める助けとする。 | |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 解剖学演習 I | 理学・作業療法学は人間の各関節を動かし、治療する手段をもっている。各関節について理解するためには、骨の形態を記憶し、体表面から骨の形態を理解しながら関節を動かすことが重要である。脊柱・上下肢模型のスケッチを行うことで複雑な関節構造の特徴と動きの制限がどのような原因により生じるか理解する。 | |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 解剖学演習 II | 人の動きの基本は、骨、関節を動かすことである。その動力源としての筋について、走行・働き・収縮状態を理解することが重要である。ここでは筋の付着部位、筋の収縮によって起こる運動、筋を支配している神経について理解することを目的としている。 | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|---------------------------|---|---------|
| （保健医療学部リハビリテーション学科） | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 解剖学演習Ⅲ | リハビリテーションにおいて重要な位置を占める運動器（骨格・関節・靭帯・筋肉等）と深く関与する神経系を学習し、それらの形態と機能を理解し、専門科目の学習のための基礎知識を修得する。さらに人体そのものの理解に努めることを目指す。 また、生体反応に深く関わる自律神経系についての理解を深め、その障害によりどのような症状が現われるのかについて考える。 | |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 生理学 | ヒトの身体機能について学習する。細胞の働き、体液と血液、循環系、呼吸器系、代謝・栄養体温、消化器系、神経系、骨格筋、感覚系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、についてその形態と関連づけながら、ヒトがどのようにして生理的な機能を発揮しているかを学ぶ。 | |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 生理学演習 | DVDを見ながら討論することによって、生理学で学習したヒトの生理的な諸機能に関する知識を確実なものにする。と同時に、互いに討論することで、論理的で科学的な考え方を身につける | |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 運動学 | 身体の運動メカニズムを理解する上で必要な運動学を学習する。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し、生体の構造や機能について理解を深める。 まず、生体力学の基礎を学び、それを元に、生体の構造と機能、四肢と体幹の運動へと学習を進める。また、理学療法学、作業療法学においては、障害者の異常動作を解析することで、メカニズムを理解し治療に応用する。運動動作分析の基礎を学ぶとともに障害者の体力を評価する手法、運動処方についても知る。 （オムニバス方式／全30回） （全10回） 運動学の定義と領域を理解し、力学的視点で身体運動を捉える。神経筋骨格系の基本構造および機能を理解する。頭部、体幹の運動学的特徴を理解する。 （全20回） 四肢の運動学的特徴を理解する。姿勢制御と歩行の運動学的および運動力学的特徴を理解する。運動学習の概念と基礎を理解する。 | オムニバス方式 |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|------------------------------------|---|----|
| （保健医療学部リハビリテーション学科） | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 運動学演習（バイオメカニクス） | 四肢・体幹の運動学を基礎として、人間の動きを運動・動作分析の手法を用いて解析する。運動・動作課題にともなう身体の動きを目で確かめ、手で触れ、さらに種々の動作分析機器を用いて計測を行い記録分析する。具体的には、歩行分析や筋電図を用いた分析を中心に行う。この演習を通して、上肢、下肢、体幹の関連した動きを理解する。 | |
| 専門基礎科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 人間発達学 | 人間の発達は、受胎、胎生期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老人期、死というライフステージに分けられる。障害のある人への支援を行う専門職には、そうしたライフステージの特徴を踏まえつつ、支援を行うことが求められている。 そのため、各ライフステージを身体的・心理的・社会的諸相が全体としてダイナミックに変化していくプロセスとして学習し、支援のあり方について考える。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 臨床心理学 | 精神的な問題を抱える個人の症状を心理学の知識と技術を用いて客観的に理解し、適切な援助を行うための基礎的知識・技術を学習する。 客観的な評価として、臨床心理アセスメント（知能検査や質問紙法等の心理検査）を用い、心理療法やコミュニティ援助を実践する。心理療法では、精神分析療法、クライエント中心療法、行動療法、森田療法、認知療法、論理療法、家族療法、短期療法、遊戯療法、箱庭療法、コミュニティ援助ではコミュニティ援助の方法と領域やその活動の実際を学習する。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 内科学 I | リハビリテーションに必要な内科的疾患の概要、病態、診断、治療を学習し、治療法に関しては、疾病の病態、症状と理学・作業・言語聴覚療法の関係を理解する。 疾患としては、呼吸循環系、血液・造血系、消化器系の各種疾患について学ぶ。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 内科学 II | リハビリテーションに必要な内科的疾患の概要、病態、診断、治療を学習し、治療法に関しては、疾病の病態、症状と理学・作業・言語聴覚療法の関係を理解する。 疾患としては、泌尿器系、内分泌・代謝系、泌尿器系、免疫系、の各種疾患について学ぶ。 | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|---|--|----|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の回復過程の成り立ち及び ひ回復過程の促進 臨床神経学 | 神経疾患に関する正確な知識を得るために、神経解剖、局所解剖、病態生理をもとに神経症候について理解する。また疾患の発症機序、経過とともに予防についての臨床的基礎を学ぶ。疾患としては、リハビリテーションに関連する脳血管障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、脱髄性疾患、末梢神経疾患、ミオパチーを中心に、不随意運動症、痴呆性疾患、てんかん、運動ニューロン疾患、脊椎・脊髄疾患、自律神経疾患について学ぶ。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の回復過程の成り立ち及び ひ回復過程の促進 臨床神経学演習 | 臨床神経学で学んだ神経症候の臨床検査法を演習する。具体的には、運動麻痺、運動失調、錐体外路症候、痙攣とミオクローヌス、筋萎縮、脳神経障害、意識障害、自律神経症候などの鑑別法について学ぶ。 画像検査、電気生理学的検査について学び、神経症候の特徴的所見について理解する。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の回復過程の成り立ち及び ひ回復過程の促進 整形外科学 | 四肢外傷、脊椎疾患と外傷、脊髄疾患と脊髄損傷、末梢神経の疾患と損傷、神経筋疾患、膠原病、アレルギー・免疫疾患、内分泌・代謝・栄養疾患等のリハビリテーション医学と密接な関係にある整形疾患についての理解を深める。また、整形外科の基礎を理解するために、整形外科的診断法、整形外科的治療手技、手術法、機能障害の回復を目的とした機能再建術等について学ぶ。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の回復過程の成り立ち及び ひ回復過程の促進 スポーツ整形外科 | アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び、重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の回復過程の成り立ち及び ひ回復過程の促進 精神医学 | 精神医学の概念を学び、精神症状の特徴を理解する。疾患としては、統合失調症、躁うつ病、てんかんを中心にその評価診断法、治療法を学ぶ。 精神医学とは、精神疾患の診断・治療を担当すると同時に、精神症状で苦しんでいる人々のこころを理解し、必要な援助を行うことである。対象となる患者の身体のみならず精神状態や、おかれている社会的状況を正確に把握する資質を養うことも重要である。また精神障害者が地域社会で生活するうえでのリハビリテーションについても理解することが肝要である。 | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|---|---|---------------------------------------|
| （保健医療学部リハビリテーション学科） | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 病理学 | 病理学は疾病(病気)を理論的に体系づけた学問であり、具体的には疾病の原因、本態、病変、経過、予後などについて学習する。病理学総論と各論に分けて行う。 総論では、萎縮、変性、壊死、代謝障害、肥大、再生、肉芽組織と創傷治癒、化生、移植、異物の処理、傍側循環、貧血、充血、鬱血、出血、ショック、血栓症、塞栓症、梗塞症、体液循環障害、炎症、自己免疫疾患、特殊性炎症、腫瘍等について、理解を深める。 また、各論では、それぞれの症状がみられる疾患について学習し、診断と外科的治療法について学ぶ。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 リハビリテーション医学 診断学 | リハビリテーション医学は様々な疾患により発生した、身体的、心理的障害に対して、正しい診断と評価を行い、早期の社会復帰を目標に行う医療である。リハビリテーションで行われている評価手技を理解し、代表的疾患についてのリハビリテーション医学診断学の基礎的知識を獲得する。 また日本におけるリハビリテーション専門医制度を理解し、急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、維持期リハビリテーションにおける専門医とのかかわりについて学ぶ。 | 医用画像を含む |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 リハビリテーション医学 治療学 | リハビリテーション医学における代表的疾患である脳卒中、脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチ、呼吸循環器障害に対する評価治療についての理解を深める。特に、それぞれの疾患に共通の合併症については、その発生機序、予防的観点について、症例を通して学習する。 また虚弱老人に対する予防的側面を踏まえた転倒予防に関する取り組みについても学習する。 | 疾病及び障害の予防を中心とした第1次予防から第3次予防にかけての基礎を含む |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 臨床栄養学 | 対象者の健康状態を把握し、その健康レベルに合わせて、健康生活の維持・増進・回復への援助について教授する。さらに、その中で必要となる栄養は、個人が抱える健康障害との関連も大きいため、多角的に栄養に関するアセスメントができるための基礎知識、療養生活と栄養、食事指導等について教授する。 (オムニバス方式全8回) (4回) 栄養状態の評価と栄養摂取量、病院食の特徴と種類、摂食・嚥下障害や代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、高齢者の特徴と栄養の基本等について教授する。 (4回) 代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、妊産婦・小児の特徴と栄養の基本、褥瘡対策やNSTの活動等について教授する。 | オムニバス方式 栄養学の基礎を含む |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|------------------------------------|---|---------------------------|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 薬理学 | 医療において薬物療法は重要な治療法である。医療従事者は患者の状態をアセスメントし指導する上で、また、医療事故を防止するためにも薬物に関する知識が不可欠である。医療的ケアを行う上で必要な薬理の知識をまとめて学ぶ。 内容は、薬物の作用と体内動態、薬効に影響する因子、薬の有害作用、抗腫瘍薬、抗感染症薬、中枢神経作用薬等である。 | 臨床薬学の基礎を含む |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 救急処置 | 本講義では、救急処置の重要性や実施者の心得について学び、救急処置の基本的な留意点について理解させることをねらいとする。緊急の事故が発生した際の対応方法を学ぶことによって、適切な救急処置の手順を理解させるとともに、緊急性を判断するための的確な傷害評価の方法について理解させることをねらいとする。スポーツ活動によって生じた傷害における具体的な救急処置の方法を学ぶことをねらいとする。生命に関わる緊急を要する状態の際の救命処置や、頭・頸部外傷時のような重大事故における救急処置の重要性について理解させるとともに、その知識と正しい技術を身につけることをねらいとする。スポーツ活動時に生じた熱中症や過換気症候群などの内科的な疾患における救急処置の基本的な留意点について理解させることをねらいとする。スポーツ現場における事故を予測し、あらかじめ事故発生時における救急処置の対応計画を整えておくことの重要性を理解し、その具体的な方法と留意点について理解させることをねらいとする。また、現場で備えておくべき救急処置用器材に関する知識とその利用方法についても理解する。 | 救急救命の基礎を含む |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 リハビリテーション概論 | リハビリテーションの歴史、概念、理念および、その仕組みについて理解する。具体的にはリハビリテーションの定義から始まり、リハビリテーションの諸相である、医学的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの違いについて学習する。また、障害の分類については、ICFの分類を中心に、現在の患者の置かれている状況を把握する。 その他、リハビリテーションチームの役割、QOL、保健医療制度、公的介護保険制度などについて学ぶ。 | 自立支援, 就労支援, 地域包括ケアシステムを含む |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療論 | 人々の健康を保持・増進するために、これまでの保健・医療・福祉に新しい発想が求められ、時代とともに制度改革がなされている。医療職として人々の健康を支援するには、保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、それらを調整できる能力が求められている。 また、医療職は人の心に直接ふれる仕事である。医療の変遷から、生命倫理や患者の権利、価値観や人格を尊重した医学的ケアについての考えを深め、専門職としてのアイデンティティを形成する基盤とする。 内容は、健康な生活と保健・医療・福祉、保健・医療・福祉の動向、現代医療の特性と医の倫理、インフォームドコンセント、情報開示、QOLである。 | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|--------------------------------|--|-------------|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 チーム医療論 | 医療に携わる専門スタッフには、職能の発揮だけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが求められる。そのためには、各専門スタッフの職域を理解し、それぞれに課された役割を理解する必要がある。 内容は、チーム医療の歴史、必要性、実際、各専門職域と役割、医療現場、在宅現場における事例を提示し、それぞれの職種の関わりを教授する。 | 多職種連携の理解を含む |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 環境と健康 | 環境の変化は人々の健康に影響し、社会的な問題となっている。また、人口動態の変化や疾病構造の変化も社会的な問題となっている。人々の健康な生活を支援する者として、これらに関する知識をもち広い視野で医療技術を考えなければならない。ここでは「環境」をあらゆる角度から捉え、健康に及ぼす影響と健康を保つための施策を理解し、医療技術に活用できる能力を養う。 内容は、生活環境と健康、教育環境と健康、労働環境と健康、人口動態と健康指標、疾病予防と健康管理、健康と衛生行政等である。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 ナラティブ概論 | NBM (Narrative Based Medicine、物語りと対話に基づく医療) は対象者が抱える問題を本人の語りを通して本人を把握し、治療する医療である。リハビリテーション医療の導入には、対象者との関係性が大切な鍵となる。その基本的な姿勢として対話と物語りを意識化することから始まる。 ナラティブ理論の基礎を学習し、臨床場面で実践ができるように演習を行う。対象者の小さな言動の捉え方と、それらを積み重ねる作業のポイントをおさえ、対象者の気持ちに寄り添うアプローチを身につけられるように指導する。また、学生自身が人生の肯定感、その共有、自分の人生ストーリーへの影響、その物語の方向性などを考えられるように教授する。 | |
| 専門基礎科目 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 社会保障制度 | コミュニケーション障害者が置かれている様々な環境を理解し、言語聴覚士がコミュニケーション障害者に最善のサービスを行うために、社会保障制度の知識は必須である。現在の社会保障制度の構成と制度を学び、社会福祉の法律が運用どのように運用されているかを理解する。また、実際の障害者に関する施策と実施体制を理解する。さらに、介護保険を始めとする介護保障とその制度の運用を理解する。その上に、直接援助技術、間接援助技術、その他の関連専門援助技術を知る (オムニバス方式/全8回) (全4回) 社 会福祉の概論を中心に、社会福祉の歴史を包括的に教授する。また医療制度、年金制度、介護保険制度について教授する。 (全4回) 社 会福祉の各論を中心に、社会福祉の方法論（個別的援助、集団的援助）を包括的に教授する。また高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、生活保護制度について教授する。 | オムニバス方式 |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|----------------------------------|---|----|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 スポーツ心理学 | <p>スポーツ心理学は応用科学として発達し、科学的、心理学的研究の成果を競技スポーツの競技力向上に応用されること意図してきた。したがって本講の内容は実際的である。受講者が講義内容を理解するだけでなく自ら実践できること、しかもアスレティックトレーナーとしてスポーツ現場で応用できるようになることにある。</p> <p>本講は共通科目のスポーツ心理学履修をふまえて、さらに深い理解とスポーツ現場での実践指導を習得し、心理面の知識がそなわった競技力向上のための質の高いアスレティックトレーナーとしてのメンタルスキルを身につける。</p> <p>講義はトレンドな事例やスポーツ心理学周辺科学を交えて授業計画に沿った各論との照合をしていく。たとえば目標設定では、個人の目標を設定し、講義当初から講義終了までの評価を行う。</p> <p>また、一般にスポーツ心理学では触れられないことのない、パフォーマンスと密接な関係にある呼吸法についてその仕組みを講義しその実践を行う。</p> <p>受講者には深い理解を得るために、担当講師が関わった多くのアスリートとのメンタルサポートの実際を公開しディスカッションする。</p> | |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 スポーツ内科学 | <p>本講義では、アスリートにみられる内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置、予防措置について理解させることをねらいとする。スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させることをねらいとする。アスリートにみられる病的現象など（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策・処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶ。高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体の反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶ。本女性、高齢者、発育期の子供の生理的特徴、運動に対する応答、特異的な障害について学習する。メディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて学習することをねらいとする。アンチドーピングの目的、ドーピングの定義などをアスレティックトレーナーが理解するとともに、スポーツ選手を指導することができるようにすることをねらいとする。</p> | |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 トレーニング科学Ⅱ | <p>体力とは「防衛力」と「行動力」に分けられ、体力の諸要素を高めるために行うトレーニングについて、プログラミングする。</p> <p>それぞれのトレーニング方法を指導する際に、目的や強化される部位についての確に示すことができ、正確な方法を指導できる力を身につける。立案されたトレーニング計画を実際に実施していくには、トレーニング環境、トレーニング負荷の増減、トレーニングに伴う疲労の問題など様々な問題があることを理解し、それらに対処する。</p> | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|---------------------------------|--|----|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 スポーツ栄養学Ⅱ | 本講義では、コンディショニングにおける食事・栄養摂取の重要性について理解し、競技特性の異なるアスリートの日常的な栄養ケアができるようにする。また、栄養欠陥による疾病の予防や様々なトレーニング状況に応じた栄養ケアができるようにする。さらに、アスリートに対するサプリメントの正しい選び方と使用方法について理解し、管理栄養士と連携した栄養ケアができるようにする。 | |
| 専門基礎科目 | こころと言語の科学 耳鼻咽喉科学 | 耳鼻咽喉科学の知識は、言語聴覚士にとって、必要不可欠なものといえる。また、その他の専門基礎科目、専門科目を学習していく上でも、基礎となる科目といえる。 ここでは、まず、耳・鼻・口腔・咽頭・気管・食道などの各々の構造や機能について説明する。さらに、それぞれ主要な病態を紹介し、耳鼻科的な検査や診断方法、治療方法について概説していく。将来の臨床現場で必要となる、耳鼻咽喉科学の知識を獲得することを目標とする。 | |
| 専門基礎科目 | こころと言語の科学 形成外科学 | 言語聴覚士にとって頭蓋・顔面への深い理解は、欠かせない。ここでは、皮膚の解剖・生理および創傷治療、組織移植や外傷、熱傷、潰瘍および形成手術、再建手術の総論について学ぶ。また、言語聴覚士に関連の強い疾患である口唇・口蓋裂については、分類・発生・原因とその手術時期・術式について具体的に学習する。 さらに、その他の頭蓋・顔面の先天異常について学び、頭頸部外科手術後の変形および機能障害などについて理解を深める。 | |
| 専門基礎科目 | こころと言語の科学 臨床歯科学 | 構音障害・摂食嚥下障害を理解するために、臨床歯科医学の知識は必須である。臨床歯科医学では、歯科・口腔領域の解剖・生理・機能・疾患および病態の理解を深める。具体的には、口腔領域に含まれる諸器官（特に歯・歯周組織）の構造・機能・発生について学び、齶蝕や歯周病などの病態を理解する。また、顎関節や唾液腺の機能・発生・構造も併せて学ぶ。さらに、口腔ケアや歯科医学的処置についても理解を深める。 | |
| 専門基礎科目 | こころと言語の科学 発声発語系医学 | 話しことば（音声）の生成にとって重要な、呼吸、発声、共鳴・調音といった諸過程に関わっている器官とその構造、および神経・筋活動などについて学習する。これらのことを通して、各過程を担う器官に生じた構造および運動の異常は正常な話しことば（音声）産生を妨げるということを理解する。 | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|----------|--|----|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 神経系医学 | <p>脳は約1000億もの神経細胞から構成される情報処理器官である。この神経細胞の複雑なネットワークにより、認知、記憶、思考、言語、感情、意志など、ヒトにとって最も重要な高次精神機能が生まれる。脳はヒトが人間らしく生きるための根幹を成す器官である。言語聴覚療法を行うにあたりヒトの脳について深く学ぶことは非常に重要な要素である。</p> <p>まず神経科学の入門として脳の神経細胞の働き、中枢神経系および末梢神経系の構造・機能について学び、それらの神経系の病態についても理解する。さらに、神経生理・画像検査についても広く学び、近年の脳イメージング（fMRI、fNIRS、MEG、EEG、SPECTなど）研究から得られた知見からヒトの脳機能についてより深く考察できる能力を養う。</p> | |
| 専門基礎科目 | 聴覚系医学 | <p>言語聴覚士の主要な業務は、言語・聴覚のリハビリテーションであり、聴覚障害について十分に理解しておくことが必須となる。多くの聴覚障害は耳疾患由来であり、また原因疾患を十分理解することが、聴覚障害者に適切な訓練・指導を行っていくうえで重要である。</p> <p>ここでは、耳の基本的な解剖や機能、聴覚検査も含めた検査法を概説する。さらに、聴覚障害をきたす代表的な疾患について解説し、難聴の機序や、難聴の診断までの過程、治療の基本的な方法などを理解することを目標とする。</p> | |
| 専門基礎科目 | 学習・認知心理学 | <p>行動の原理を学び、それを日常の身近な行動に当てはめて考えられることを目指す。人間を含めた動物の行動の獲得・維持・変化・消失に関わる古典的条件づけとオペラント条件づけに焦点を当て、行動がどのような要因の影響を受け変化するのかについて理解し、その原理に関連する諸現象を学習する。</p> <p>さらに、認知とは生体の能動的な情報収集・処理の活動であるため、環境からの情報収集と保存、獲得した情報を加工して新たな知識を作り出す過程などについても学習する</p> | |
| 専門基礎科目 | 心理測定法 | <p>心という、直接に観察・測定することはおそらく不可能なものを、私たちはどのようにして観察・測定するのか。その観察・測定の方法を具体的に学習する。心理測定法の論理を理解し、私たちの知覚、認知、動機、感情、欲求、価値、性格など、心のさまざまな側面を測定するために開発されてきた実際の測定方法を体験し、自らが分析し、考察することによって、心理測定法の実際に触れる。さらに、基本的な実験計画方法についても理解を深める。</p> | |

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|----------------------|---|-----------------|
| (保健医療学部リハビリテーション学科) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 専門基礎科目 | 「こころと言語の科学」 言語学 | <p>（オムニバス方式／全15回） （全11回）</p> <p>最も複雑で高度な構造を持つ記号としての言語について学ぶ。具体的には、言語の基本的な諸性質と言語の単位、音素と音韻論および音節とその構造、形態素と意味、文の構造とシンタクス（統語論）である。さらに、これらについて、言語聴覚士としての必要性についても学ばなければならない。評価や訓練において患者様が習得する対象としての日本語について、理解しなければならない。</p> <p>（全4回）</p> <p>失語症等の評価訓練における評価課題、訓練課題の設定に日本語に関する言語学的知識がどのように活用されるかを学ぶ。</p> | オムニバス方式 |
| 専門基礎科目 | 「こころと言語の科学」 音声学 | <p>まず、発声発語と摂食嚥下障がい症状と苦痛を感覚的に理解するための模擬体験授業を行う。</p> <p>構音障がい、音声障がい、摂食・嚥下障がい、吃音は、全て運動系の障がいである。これらに共通する基礎知識として、発声発語・摂食嚥下の器官の解剖・構造ならびに、機能については総合的に学ぶことが望ましい。発声発語、摂食嚥下の機能の学習に先立ち、各器官の基本的解剖、機能を学生がグループ単位で自己調査し、まとめ発表する自主学習を行う。その上で、構音、発声、摂食嚥下の各機能について理解を深めるだけでなく、相互の関係性についても十分に学ぶ。同時に、評価、訓練に重要なので、これらの器官によって行われるそれ以外の運動、例えば楽器や玩具を吹くブローイング等についても学ぶ。</p> <p>また、喉頭、下顎、舌、口唇などの器官が発声発語と摂食嚥下以外にも、管楽器や吹くおもちゃを吹いたり、日常生活上の動作をしていることを理解するために、学生自身に実際にこれらの動作を体験し、整理、列挙させる方法で自主的に学習させ、教員が総括する。</p> | 講義22時間 演習8時間 |
| 専門基礎科目 | 「こころと言語の科学」 音響学 | <p>コミュニケーションの基本となるものは音声であり、音声はコミュニケーションが成立するための重要な要素の一つとなっている。言語聴覚障害の科学的な分析能力を養う上で、音声を持つ物理的特性や音響分析の基礎的知識、種々の音声の音響学的特性や音声分析の方法を学ぶ。</p> <p>また、音声情報を処理する聴覚機構は脳機能の一つであるが、音声の物理的な変化とは必ずしも対応しない心理的側面を持つ。音の物理的な変化に伴う聴覚心理的な変化との対応や聴覚機能のメカニズム、両耳の意義などを学習する。</p> | |
| 専門基礎科目 | 「こころと言語の科学」 言語発達学 | <p>子供たちは、誕生後数年のうちに、基本的な言語能力のほとんどを身につけてしまう。なぜ子供たちは、言語を獲得できるのか、どのように獲得していくのか、言語発達の道筋について理解する。まず「聞く」「話す」しくみと働き、ことばの生物学的基礎と言語獲得理論（生得論、学習論、認知論、社会的認知論など）を学習する。さらに、前言語期、語彙獲得期、前期構文獲得期、中期構文獲得期、学童期の言語発達を概観し、言語発達障害児診断における基礎的な知識を得る。</p> | |